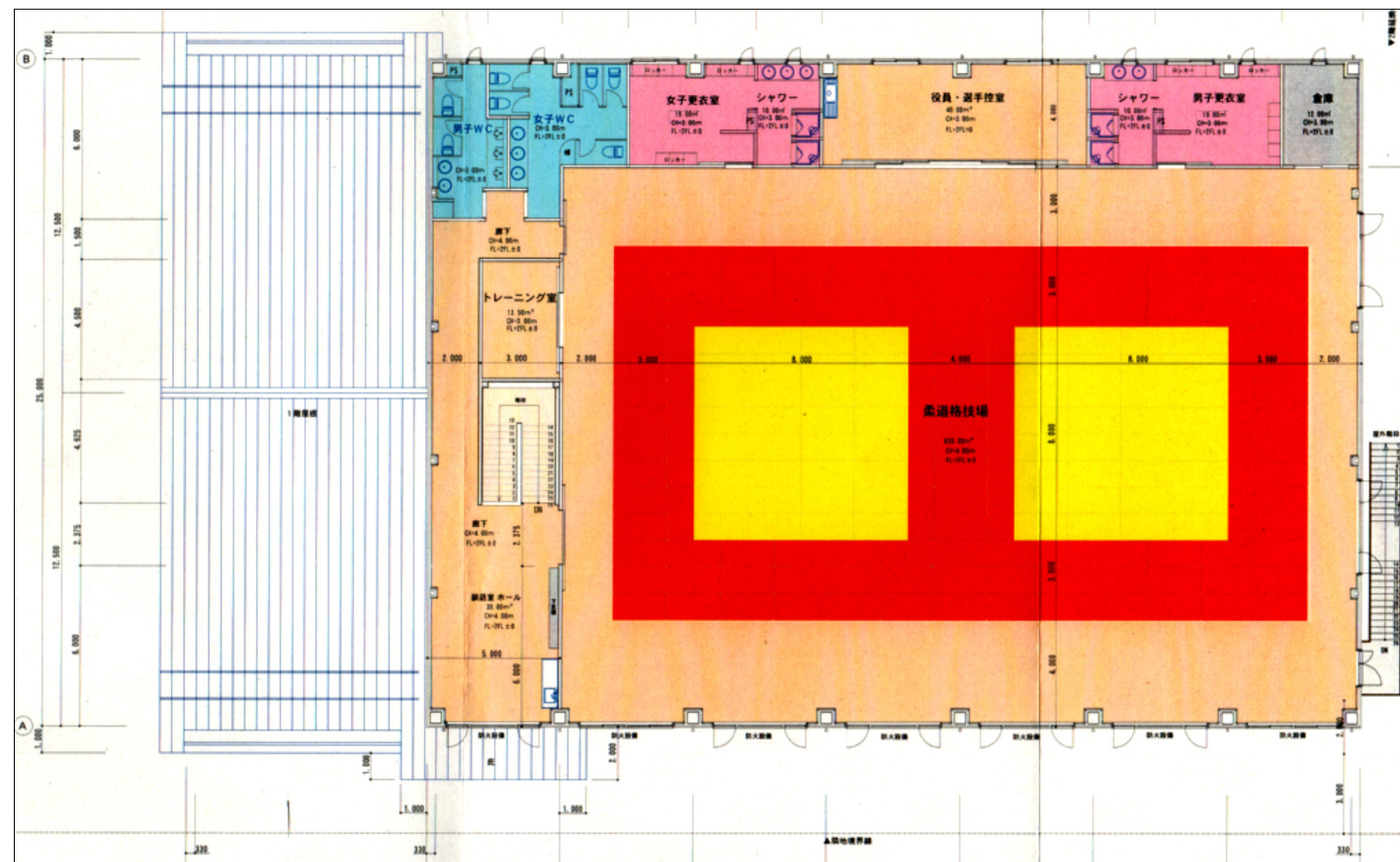


その他の工事が進んでいる事業の概要説明



街なかの新たな核施設 旧土岐邸洋館

現在、沼田公園内にあり、街なか再生の上之町の核施設の一つである旧土岐邸洋館の移築工事も進んでいます。

建築費は約1億4,800万円 建築面積135.52㎡
1階床面積=132.70㎡ 2階床面積= 89.07㎡
特徴など

この建物は、大正13年に東京渋谷に建てられたもので、ドイツの郊外別荘風住宅で、屋根窓と和と洋の接客室が特徴ということです。

来年1月末日の完成を目指しています。

令和2年度完成を目指す新武道場

現在、沼田公園内にあり、築60年の老朽化が著しい沼田市武道場は、上図面の示す新しくなります。

建築費約7億5,000万円 建築面積1,975㎡

1階床面積=1,100㎡

剣道・空手格技場（2面）卓球 ウェイト
トレーニングルーム 会議室 管理室

2階床面積=875㎡

柔道格技場（2面） トレーニングルーム

談話室 ホール 選手控え室

各階ともにシャワー付き更衣室 LED照明

屋根上ソーラーパネル 30.6キロワット



移築中の旧土岐邸



解体中の旧東原庁舎

沼田市議会議員高柳かつみ

2019年 秋期 NO62号

と明日の沼田を前向きに考える情報誌

歩む会ニュース

発行責任者 高柳 勝 巳 〒378-0055 沼田市柳町2583-8 ルピナス103号 ☎ 25-8062
ホームページ <http://www.ayumu-kai.jp/> Eメール xx.takayanagi-po@au.wakwak.com



左の写真は工事が進捗してきた利南運動公園の野球場 建築費=約19億円
上の図は、その完成イメージ



左は利根西小学校跡の新給食センターイメージ図 右は工事中的写真 建築費約16億円

62号の概要

●私の一般質問

- 1 移動に困難を抱える方々の支援
- 2 新潟県三条市のデマンド交通

●お互い様のまちづくりについての分析 高齢者の生活実態と地域づくり

断らない窓口設置検討と協働の在り方

8050問題や引きこもり、DVへの対応と支援
新しい時代のシルバー人材センターの在り方

●その他の建設中のインフラ施設 新沼田市武道場 旧土岐邸洋館

8050問題＝年金高齢者と無職の子ども 7040問題＝子育てと介護両立世代 (ダブルケア世代)への対応は？

質問 内閣総理大臣をトップに、複合的課題へワンストップで対応する「断らない相談支援」体制構築を推進していくことが決定されました。

私は、これまでも繰り返し述べてきたように「申請・申告を単独縦割りで、相談に来るのを待つ姿勢・体制」では、高度化・複雑化・多様化した社会問題の対応としては、甚だ不十分な仕組み・体制であると主張してきました。

相談者に対して該当する複数の部や課の担当が、相互に調整しながら相談者と一緒になって問題解決まで、伴走していく仕組みや体制づくりについての考えをお聞かせください。

答弁 国の地域共生社会推進検討会で検討している「断らない相談支援」は、介護、障害福祉、子育て支援、生活困窮者自立支援など、従来の縦割り構造ではなく、分野横断的・複合的な相談を受け止める機能と、相談者と継続的につながり続ける支援を想定していますので、国の方針が決定したところで、支援の充実に向けて研究していく考えです。

DVや引きこもり相談は デリケート＝堅固な支援を！

質問 先程の事業展開に伴って、さらに踏み込んだ内容にしていくためには、専門的な知識や柔軟な運営、ネットワークを持つNPO等との連携や一体化のための体制整備が是非とも必要になります。こうした基本認識の上に立ち、一定の基準や尺度も必要と考えますが、これらの体制づくりへの考えをお聞かせください。

これに関連して、とりわけDVやネグレクト、悪質詐欺などの相談には、警察等の力を背景にしなければならない、身体の高齢者を伴う相談事業になります。プライバシー保護の課題も含め、「窓口の一体化」の検討と合わせて、こうした活動に対する公共施設の柔軟な使用について、市長のお考えを伺います。

時代は伴走型・問題解決型支援に DV相談等のための公共施設の柔軟な使用を



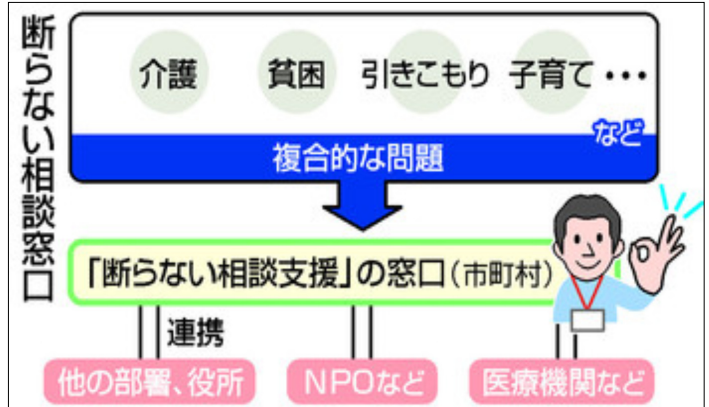
7月の新聞報道の抜粋です。
厚生労働省は、子どもの引きこもりが長期化し、親も介護や貧困を抱えて行き詰まるなど生活上の複合的な問題に一括して対応する「断らない相談支援」を、2020年度から強化する。

役所内で問題をたらい回しにしない体制を整えるほか、窓口を置く市町村も増やす。

引きこもりの子が50代、親が80代と共に高齢化する「8050問題」や、介護と子育てを同時に抱えて負担が過重になる「ダブルケア」などの問題には、従来の制度を超えた柔軟な対応が必要。「断らない相談支援」は、異なる福祉分野の課題を一度に抱えたケースに一括して応じる仕組みで、厚労省が提唱している。

20年度は、市町村の「断らない相談」で明らかになった、既存の制度ではカバーできない就労、居住支援などのニーズに対応する予算を確保。継続した支援ができるよう、社会福祉協議会やNPO、企業や商店街といった地域のさまざまな関係者に参加を促す仕組みもつくる。

具体的には、関係者に働き掛けるコーディネーターを市町村に新たに配置する。19年度予算では、断らない相談窓口の設置経費に充てる補助金を200市町村分確保していたが、20年度はこれを250市町村分まで増やしたい考え。



答弁 プライバシーに配慮しながら、テラス沼田内の会議室等を柔軟に使用して相談を受けていますが、今後も、生命に関わる緊急な対応を必要とするケースもあることから、引き続き慎重かつ柔軟に対応をしていく考えです。

承認期間としての「会議」ではなく、実態調査や具体化の検討を！

質問 生き生き長寿のまちづくり計画をつくるに当たって、毎回アンケートをとってありますが、買い物などは誰に手伝ってもらってるんだろう。何時ごろ困ってるんだろう。週に何回必要としているんだろう。こんなことはわからないわけです。これがわからないと、交通システムの資料にはならないわけなので、アンケートじゃなくて、ヒアリングも含めた詳細実態調査がぜひとも必要だと考えます。こうしたデータや青写真を持って、地域公共交通会議に臨む姿勢が必要と確信します。

看護学校送迎バスの空き時間を活用した 病院発！無料送迎バス



姫野病院の決意！
医療法人八女発心会 姫野病院では福岡県道84号において路線バスが廃止による移動手段や通院が困難となっておられる方の救済を目的とし無料通院送迎バスの運行開始を決めました。

過疎地での地域住民の移動手段として公共交通機関や自家用車は必須になります。しかし公共交通機関の路線廃止、高齢化が進み自家用車の運転の危険性の問題があります。

無料通院送迎バスは病院の通院・お見舞い・リハビリだけではなく、お買い物や外出にも乗車可能になり事前予約もいりません。

姫野病院では、病気、ケガではなく元気な方でも来れる病院で、病院以外の機能を持たせたコミュニティの場にしたいと考えています。『ゆりかごから看取りまで』人生の全てを姫野病院でお世話できるよう、医療や介護の枠に捉われず、学ぶ場所や雇用、働く場所を充実させることを日々提供していきます。

答弁 沼田市では道路運送法の規定に基づいて、副市長を会長に置き、バス事業者や関東運輸局群馬運輸支局、群馬県交通政策課、沼田警察署、住民利用者代表などにより構成された沼田市地域公共交通会議を設置し、利用者の利便性の確保などを協議しております。

(交通支援や買い物支援などの)路線バス利用者の求めるニーズを把握することは、路線網や運行方式などを検討する上で重要であると考えております。

行ってきました渋川市へ！ 「あいのり買い物タクシー」



充分なニーズ調査の上に確実な積み上げ！
渋川市社会福祉協議会では、「あいのり買い物タクシー」の「試行」を数年前から実施していて既にマスコミ報道も何度かされた事業でご存知の方もいるかと思います。

実際にお邪魔をしてお話を伺うと、今年の内全域開始までに様々なニーズ調査と内部での真剣な検討が積み上げられてきていたことがヒシヒシと伝わってきました。

移動販売の研究のために倉渕村のコンビニまで出掛け、販売に来てもらうのだからと「過剰購入」のデメリットの存在も確認出来たと話されました。

そもそも、タクシーの「相乗り制度」自体の実証実験が始まったのが平成29年ですから、高齢者の買い物支援には玄関から玄関まで移動が可能で、料金が低く抑えられる二つのキーワードに、地元スーパーとの交渉含めて、こだわりながら現在のシステムを完成させたと聞きました。